

1. 本教材について

音楽会の練習をするというウグイスと、誕生会をするヤマガラの両方の家に招待されている小鳥たちは、明るくてきれいなウグイスの家に行く。ミソサザイもみんなと一緒にウグイスの家に行くが、ヤマガラのことが気になり、ウグイスの家をそっと抜け出してヤマガラの家に行くと、ひとりぼっちでしょんぼりしていたヤマガラは、涙をうかべて喜んだという話である。

- ▼山奥のさびしいところにあるヤマガラの家には行かないが、明るくてきれいなウグイス家に行くという小鳥たちの行動は、音楽会の練習を理由にしているけれど、本当はウグイスの気持ちを忖度して、ヤマガラのお誕生会には行きたくない、という気持ちであると思われる。
- ▼小鳥たちは自分で行動を決めているように見えるけれど、実は女王様の存在のウグイスに従わざるを得ない状況にあるのではないかと思われる。ウグイスや取り巻きの小鳥たちに疎外されているヤマガラとの間で悩むミソサザイという差別の構造が出来上がっている。
- ▼「そっとウグイスの家から抜け出し」たミソサザイの行動は差別を許さない、差別と闘う行動であるとまでは言えないのかもしれないが、その行動によってヤマガラはとてもうれしかったし、その行動はミソサザイの精一杯の行動であったのだらうと思われる。ミソサザイは、自分は何を、何をしにウグイスの家に行ったのか、自分でもわからなくなっていたと思われるが、そのような悩む気持ちの中でヤマガラの家に行こうと行動を起こしたことに気づかせたい。

2. 本教材を扱う際に、特に注意すべきだと考えたこと

- ・鳥たちはヤマガラのお誕生日に招待されている。鳥たちはヤマガラの家が山奥の寂しいところにあるから行かないという。しかし、音楽会の練習と言うが実はウグイスの明るくてきれいな家とおいしいごちそうを楽しみにしているからだということに気づかせ、小鳥たちの行動はそれでいいのだろうか、またミソサザイの行動をどう考えるかなどについて話し合う。

3. 指導過程

	子どもの活動や教師の発問等	留意点
導 入	<p>◆教材文を読む</p> <ul style="list-style-type: none"> ・状況をつかむ *迷うことなくウグイスの家に行く小鳥たちと迷いながらもウグイスの家に行くミソサザイ *みんなが楽しそうであればあるほど、ひとりぼっちのヤマガラのことが気にかかるミソサザイ。 *ウグイスの家からそっと抜け出しヤマガラの家に行くミソサザイ *涙をうかべて喜ぶヤマガラ 	<ul style="list-style-type: none"> ・おいしいごちそうを食べ楽しんでいる小鳥たちの様子から、小鳥たちは、音楽会の練習をしなければならぬと考えたから、ウグイスの家に行ったのではないことや、一人ぼっちのヤマガラことは全く考えていないことに気付くことができるようにする。

